

# 行田市都市計画マスタープラン 策定委員会

## -第2回策定委員会資料-

1. 行田市の将来都市像と都市づくりの体系	1
2. 行田市の将来都市像と都市づくりの基本目標について	1
3. 目標の実現に向けた主要な課題の設定について	3
4. 地域別懇談会の結果概要	4
5. こども会議の結果概要	5
6. 市民まちづくり会議の概要	6

平成24年3月16日

# 1. 行田市の将来都市像と都市づくりの体系

**都市づくりの体系**

**まちづくりの基本理念**  
「ひとの元気・地域の元気・まちの元気」

**将来都市像**  
水と緑と歴史がおりなす 笑顔あふれるまち ぎょうだ  
【目標年次】 平成 44 年度（平成 25 年度から 20 年間）  
【将来人口フレーム】 定住人口 70,000 人  
まちづくり人口 83,000 人

**都市づくりの基本的な方向**  
現行都市計画マスタープランの将来都市像「水と緑が歴史と未来をつなぐまち」を受け継ぎつつ、「暮らしの充実」と「にぎわいの創出」を都市づくりの新たなキーワードとした都市づくりを展開

暮らしの充実      にぎわいの創出      水と緑と歴史の継承

**都市づくりの基本目標**

<b>笑顔で暮らす、住みよいまち</b> 1 都市拠点の活性化と周辺地域の生活環境の調和がとれたまち 2 良好な都市環境が整った交通便利性の高いまち 3 子どもからお年寄りまで快適で安心・安全に暮らせるまち	<b>笑顔あふれ、にぎわいを生むまち</b> 4 産業・観光により雇用の場が確保され、生き活きと働き暮らせるまち 5 市民と来訪者の交流がにぎわいを生み、快適に過ごせるまち 6 地域産業が活発な活力のあるまち	<b>行田らしさが光るまち</b> 7 美しい水と緑、田園風景が広がる、環境に配慮したまち 8 歴史的な街並みや調和のある都市景観が形成され、歴史が息づくまち 9 市民と行政、民間等が相互に連携した、市民が主役のまち
--	---	---

**実現に向けた主要な課題**

① 土地利用に関する課題 1 4 6	② 道路・交通に関する課題 2 3 5	③ 公園・緑地・自然環境に関する課題 3 7	④ 暮らしに関する課題 3 5	⑤ 都市の魅力高める施設に関する課題 4 6	⑥ 景観に関する課題 8	⑦ 歴史・観光に関する課題 5 6 8	⑧ 市民参加・情報発信に関する課題 9
-----------------------	------------------------	---------------------------	--------------------	---------------------------	-----------------	------------------------	------------------------

# 2. 行田市の将来都市像と都市づくりの基本目標について

**まちづくりの基本理念**  
「ひとの元気・地域の元気・まちの元気」  
○快適で住みよいまち    ○健康で幸せなまち    ○個性を伸ばす教育と文化を育てるまち  
○産業振興で豊かなまち    ○心ふれあうまち

**将来都市像**  
水と緑と歴史がおりなす 笑顔あふれるまち ぎょうだ

**検討事項・留意点等**  
⇒将来像は、こども会議の成果を集約して作成。  
・キャッチフレーズだけでは行田市のイメージが湧いてこない。  
⇒水と緑と歴史は行田市を象徴するキーワードである。  
⇒計画策定の中で、独自性のある施策を検討する。  
⇒重点プロジェクトの設定等により行田らしさを打ち出す。

笑顔あふれるまちとは、住む人も訪れる人も幸せを感じるまちです。そして、誰もが生き生きと楽しく暮らしていることが、訪れる人にとって、最大のおもてなし環境です。「にぎわいの赤」、「うるおいの青」、「やすらぎ、ぬくもりの緑」の3原色を組み合わせ、行田オンリーワンのまちをつくっていきます。古代から現代へ人の営みを綿々とつなぎ、未来をきりひらくまち、これが行田です。現代を生きる私たちは、まちをつくり、育て、発展させ、未来につなげていきます。

**将来人口フレーム**  
【目標年次】 平成 44 年度（平成 25 年度から 20 年間）  
【将来人口フレーム】 定住人口 70,000 人  
(まちづくり人口 83,000 人)  
人口減少の抑制と交流人口の増加促進により、定住人口7万人を目指します。(定住人口と交流人口をあわせた「まちづくり人口」は8万3千人)

**検討事項・留意点等**  
・目指す人口規模によって、土地利用の転換や基盤整備の規模など、やるべき施策が変わってくる。  
⇒目標とする人口フレームの実現に必要な取組みの重み付けや、施策展開について整理する。

(参考)  
平成 22 年度国勢調査に基づく人口想定

区分	平成 44 年度 (20 年後)	平成 34 年度 (10 年後)
総人口	69,413 人	81,733 人
年少人口 (15 歳未満)	5,844 人 (約 8.4%)	7,808 人 (約 9.6%)
生産年齢人口 (15~65 歳未満)	38,203 人 (約 55.1%)	47,189 人 (約 57.7%)
老年人口 (65 歳以上)	25,366 人 (約 36.5%)	26,736 人 (約 32.7%)

※第 5 次総合振興計画策定時

区分	平成 32 年度
総人口	79,682 人

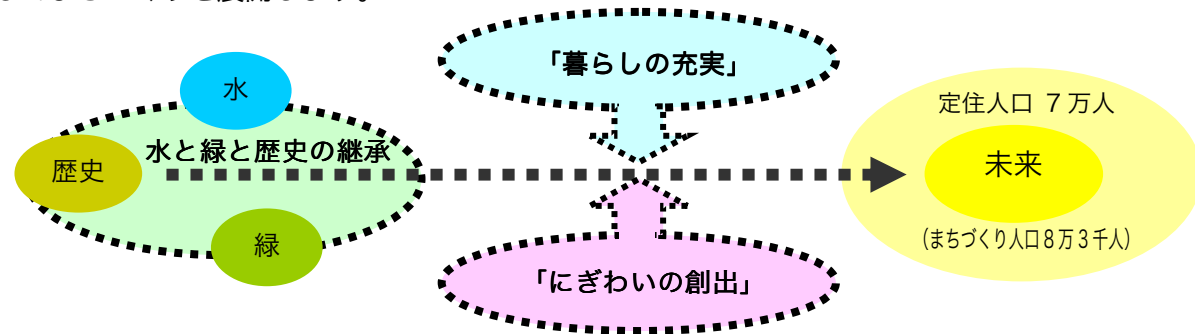
**<現状と問題点>**  
・周辺都市と比較して人口の減少傾向が著しく、高齢化も進行。  
・忍城等の歴史的資源を活用したイベント等により観光客数は増加傾向にある。  
・地域別懇談会や市民まちづくり会議では、豊富にある行田市固有の自然や歴史資産が結びついておらず観光資源として活用されていないとの指摘が多い。  
・市民アンケート調査では身近な遊び場などの居住環境・交通の利便性の満足度が低い。特に子育て世代では通勤や子育て環境の満足度が低い。

◎第 5 次行田市総合振興計画    ◎まちづくり埼玉プラン (埼玉県)  
◎行田市国土利用計画            ◎都市計画区域の整備・開発及び保全の方針 (埼玉県)  
◎新市建設計画                    ◎みどりの基本計画  
◎行田農業振興地域整備計画    ◎行田市環境基本計画  
◎行田市観光振興基本計画        ◎行田市地域防災計画  
◎行田市景観基本計画            ◎行田市地域福祉計画 (◎上位計画、○関連計画)



## 都市づくりの基本的な方向

現行都市計画マスタープランの将来都市像「水と緑が歴史と未来をつなぐまち」を受け継ぎながら、少子化・高齢化や人口減少など市を取巻く厳しい社会情勢のなか、定住人口7万人（まちづくり人口8万3千人）の実現に向けて、「暮らしの充実」と「にぎわいの創出」を都市づくりの新たなキーワードとしてまちづくりを展開します。



## 都市づくりの基本目標

### 笑顔で暮らす、住みよいまち -暮らしの充実-

- 1 都市拠点の活性化と周辺地域の生活環境の調和がとれたまち
- 2 良好な都市環境が整った交通利便性の高いまち
- 3 子どもからお年寄りまで快適で安心・安全に暮らせるまち

**検討事項・留意点等**  
 ・単なるベッドタウンではなく自立した都市を目指すべきである。  
 ⇒行田市が目指す方向性を見定め、整理をする。

・都市軸としてJR吹上駅等との関係も整理する必要がある。

・ポテンシャルの高い前谷地区の土地利用を検討する必要がある。

### 笑顔あふれ、にぎわいを生むまち -にぎわいの創出-

- 4 産業・観光により雇用の場が確保され、生き生きと働き暮らせるまち
- 5 市民と来訪者の交流がにぎわいを生み、快適に過ごせるまち
- 6 地域産業が活発な活力のあるまち

・にぎわいを創出するためには、まず雇用が重要。郊外への拡大より、既存の工業団地の充実を優先すべきである。

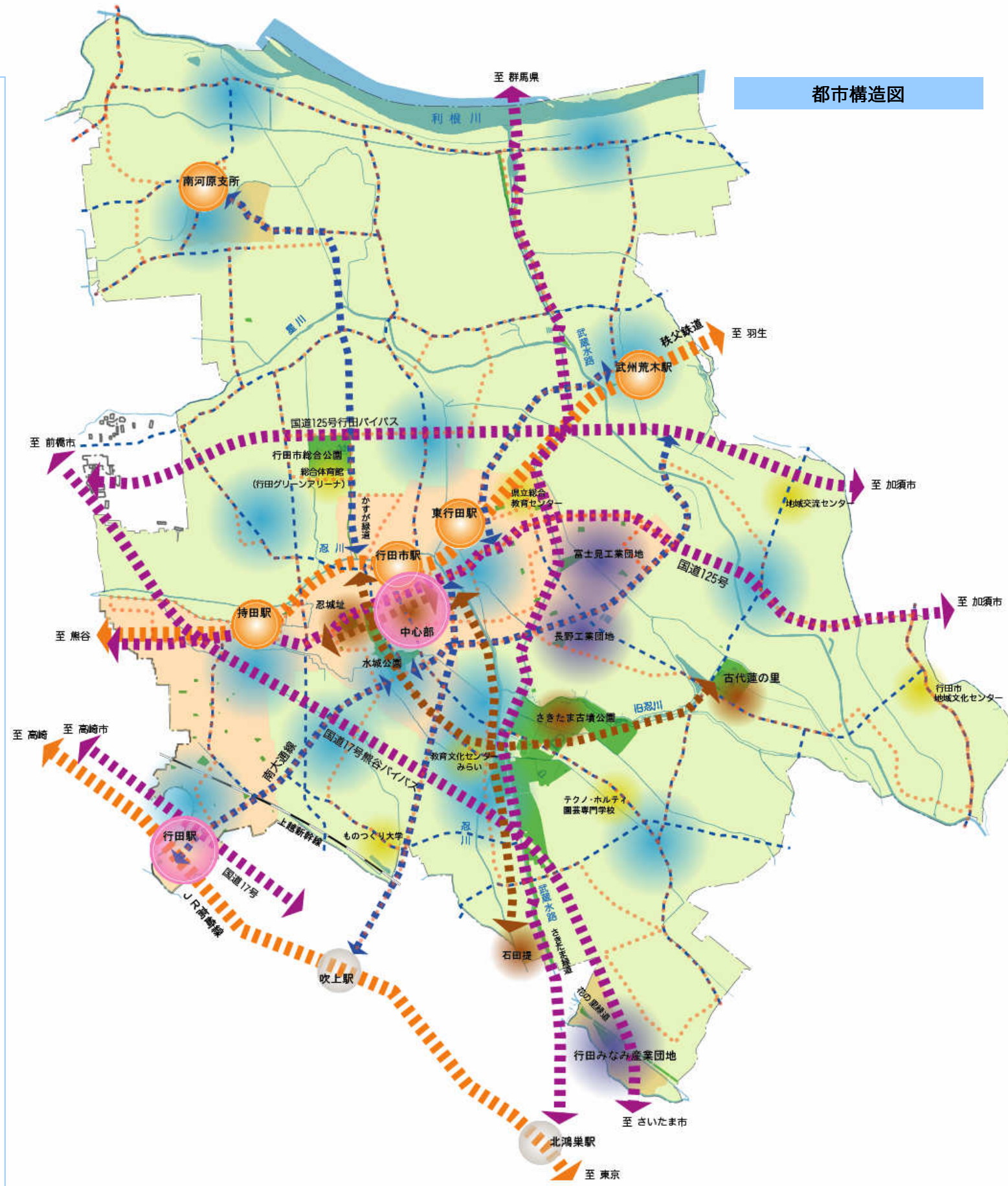
・人口減少が進行する中で、市街化拡大路線ではなく、必要最小限の転換、機能的な整理をする必要がある。

### 行田らしさが光るまち -水と緑と歴史の継承-

- 7 美しい水と緑、田園風景が広がる、環境に配慮したまち
- 8 歴史的な街並みや調和のある都市景観が形成され、歴史が息づくまち
- 9 市民と行政、民間等が相互に連携した、市民が主役のまち

・『コンパクトシティ』の位置付けが必要ではないか。  
 ⇒『コンパクトシティ』とは都市的土地利用の郊外への拡大を抑制し市街地の効率化を図る都市づくりの概念である。計画策定においては、市街化調整区域の土地利用の見直しや郊外部の暮らしの充実化を目標に掲げていることから、表現を控えている。なお、都市機能が集積した都市構造の実現は重要なものと認識しており、施策に展開していく。

## 都市構造図



拠点	エリア	軸	その他
● 都市拠点	● 暮らしのエリア (地域公民館周辺等)	■ 広域連携軸 (道路)	● 公共交通ネットワーク
● 活動拠点	● 工業団地エリア	■ 広域連携軸 (鉄道)	■ 公園・緑道等
	● 交流・情報発信エリア	■ 都市軸	■ 河川等
	● 歴史・文化エリア	■ 生活軸	■ 市街地
		■ 歴史・文化軸	■ 周辺地域



### 3. 目標の実現に向けた主要な課題の設定について

#### 目標の実現に向けた主要な課題の設定

「笑顔で暮らす、住みよいまち」

「行田らしさが光るまち」

「笑顔あふれ、にぎわいを生むまち」

#### ① 土地利用に関する課題

##### ■将来人口フレームにふさわしい土地利用の実現に向けた、都市機能の再生・集約・転換

- ▶市街地の再生と都市機能の集約（中心部・JR行田駅周辺等）
- ▶市街化調整区域の土地利用の転換（前谷地区等の土地利用の見直し、国県道等沿道の土地利用の見直し）
- ▶住宅地への規制誘導（地区計画・高度地区・建築協定等）の導入による住環境の維持保全・向上
- ▶産業を活性化する土地利用の見直し（農・工・商）

▶周辺地域の適切な開発の誘導

#### ② 道路・交通に関する課題

##### ■道路と公共交通（鉄道・バス）の利便性の向上

- ▶生活道路ネットワークの充実
- ▶公共交通（鉄道・バス）ネットワークの充実
- ▶駅前駐輪場・駐車場の充実

##### ■歩行者・自転車利用者に快適なみちづくり

- ▶安全で快適に歩いて暮らせるみちづくり
- ▶自転車利用を促進する道路環境の整備

##### ■広域圏における都市間アクセスの強化

- ▶広域幹線道路の整備促進

#### ③ 公園・緑地・自然環境に関する課題

##### ■公園整備による住環境の向上

- ▶身近な公園・広場等の計画的な整備
- ▶公園・広場等の維持管理の充実

##### ■水と緑のまちにふさわしい自然環境の維持保全

- ▶河川や水路、緑道、自然公園等の整備と維持管理
- ▶河川環境の美化と美しい水辺空間の創出

##### ■低炭素都市の創出

- ▶環境に配慮した都市施設の整備
- ▶市街地や公共施設等における緑化の推進
- ▶行田エコタウンの創出（道路照明灯などのLED化、レンタサイクルの推進等）

#### ④ 暮らしに関する課題

##### ■市民の日常を支える生活環境の充実

- ▶高齢者・要援護者の生活環境の向上（身近な商業施設や医療福祉施設等の計画的な配置）
- ▶地域交流施設の充実（公民館や小・中学校の再編等）
- ▶子育て世代の生活環境の向上（交通利便性の向上）（歩いて暮らせる道路環境の整備）

##### ■安心・安全に暮らせる防災・防犯対策の充実

- ▶風水害対策の充実と老朽住宅等の耐震化
- ▶通勤・通学路等の安全性の向上（歩行者空間の確保、道路照明灯の整備等）

##### ■市民の暮らしを支える供給処理施設の充実

- ▶上下水道の整備・更新・耐震化
- ▶ごみ処理施設の計画的な運営・維持更新

#### ⑤ 都市の魅力高める施設に関する課題

##### ■中心部における魅力ある都市拠点の再生

- ▶歴史あるまちにふさわしい商店街の活性化・再生（魅力ある商店の集約、空き店舗の活用等）

##### ■駅周辺における生活支援・交流機能の充実

- ▶駅周辺における都市機能の集約・充実（子育て支援施設や高齢者支援施設等の充実、周辺住宅地の有効利用）

・都市拠点の役割・機能の整理が必要。

⇒例えば

- JR行田駅：通勤通学のための玄関（日常）
- 行田市駅：中心部に来る人の玄関（非日常、観光）
- ⇔都市拠点と交通アクセス（JR吹上駅を含む）を整理する。

⇒今後、土地利用構想を作成する上で、都市拠点、都市軸、ゾーニングの整理をする。

#### ⑥ 景観に関する課題

##### ■水と緑と歴史のまちにふさわしい景観の創出

- ▶歴史的景観資源を活用した街並み景観の創出
- ▶水と緑の自然・田園景観の維持・保全（景観ガイドライン、景観に配慮した公共施設整備）

##### ■良好な市街地景観の形成

- ▶市街地における良好な都市景観の形成（景観条例、地区計画等の規制誘導）

#### ⑦ 歴史・観光に関する課題

##### ■歴史資源を活用した地域産業の創出

- ▶忍城址・足袋蔵など歴史・文化資源を活用した地域産業の創出

##### ■観光資源ネットワークの構築

- ▶忍城址とさきたま古墳公園・古代蓮の里等の観光資源のネットワーク強化（道路網・公共交通網・自転車道・歩道）

##### ■都市計画と観光施策・事業との連携

- ▶観光案内所や道路案内板等の充実

#### ⑧ 市民参加・情報発信に関する課題

##### ■市民参加の機会の創出

- ▶市民参加のバリアフリー化（環境・情報手段）
- ▶継続的な推進体制の構築

##### ■市民団体や高次教育施設、民間事業者等との連携

- ▶市と高次教育施設、市民団体等が連携したまちづくり計画の構築
- ▶拠点整備における民間事業者との連携
- ▶公共施設のアドプト制度による維持管理

##### ■情報発信体制の強化

- ▶広報広聴活動の充実
- ▶観光等の情報の一元化

## 4. 地域別懇談会の結果概要

### 実施概要

各地域の現況と課題を把握するため、市全域を4地域に分けて下表のとおり地域別懇談会を開催し、合計90名の参加をいただきました。

#### 【実施状況】

地域	日時	場所	参加者数
西部	11/19 (土) 10時～12時	太井公民館	23名
中心部	11/19 (土) 15時～17時	市役所3階 305会議室	32名
北部	11/20 (日) 10時～12時	グリーンアリーナ 2階研修室	15名
南東部	11/20 (日) 15時～17時	中央公民館 2階第2学習室	20名

#### 【プログラム】※各地域共通

- ・都市計画マスタープランについての説明
- ・市民アンケート調査結果の報告
- ・グループワーク「地域におけるまちづくりの現状と課題」

### 西部地域のまとめ

#### ●宝もの（良いところ、残したいところ）

- ・市全域に水と緑が豊富にある。
- ・持田4丁目付近など、畑の風景を残したい。
- ・南大通線が開通し、JR行田駅へのアクセスが良くなった。
- ・歴史と文化をまちづくりに活かしたい。
- ・JR行田駅は行田市の玄関口であり、具体的な構想・計画の中に位置付けたい。
- ・保育や学童に関する環境が充実している。
- ・総合病院や個人病院があり、住みやすい。

#### ●問題もの（悪いところ、改善したいところ）

- ・公園や緑が少なく、子どもが遊ぶ場が少ない。
- ・持田インター周辺でのゴミのポイ捨てが問題。
- ・国道17号熊谷バイパスの騒音対策が必要。
- ・駅の駐車場、駐輪場が狭い。
- ・人口減少を止めるために前谷地区周辺の開発を検討して欲しい。
- ・農業従事者の高齢化に伴い、耕作放棄地が増えている。
- ・観光資源はあるが、観光客向けの飲食施設や宿泊施設がない。
- ・自治会に加入する人が減少している。また、子育て世代は忙しく地域活動に積極的に関われない。

#### 西部地域の課題

- ◆JR行田駅を都市拠点として位置付けるとともに、駅周辺の開発の整備推進・道路や公共交通ネットワークの強化など、転入者や来訪者の増加につながる施策の充実が求められている。

### 北部地域のまとめ

#### ●宝もの（良いところ、残したいところ）

- ・恵まれた自然環境がある。利根川の整備と自然環境の保全を進めていきたい。
- ・南河原地区では地域がまとまっており、住民同士の協調や融和がある。
- ・秩父鉄道武州荒木駅を地域の核として活性化させていきたい。

#### ●問題もの（悪いところ、改善したいところ）

- ・道路の舗装整備が全体的に必要。
- ・市中心部や公共施設等へのアクセスが良くない。
- ・特に利根大堰周辺の交通渋滞がひどい。
- ・下水道が未整備で用水路が下水道の代用をしている。
- ・南河原地区の市街化区域内の整備が急務である。
- ・市街化調整区域では地域が停滞している。
- ・防犯灯が少なく、暗い。

#### 北部地域の課題

- ◆道路・公共交通等の都市基盤の整備・充実が求められている。
- ◆恵まれた田園風景などの自然環境を活かしつつ、居住環境との調和のとれた整備が求められている。



### 中心部地域のまとめ

#### ●宝もの（良いところ、残したいところ）

- ・南大通線が開通し、市内循環バス路線が充実されて便利になった。
- ・公共施設が整っている。
- ・水城公園などの景観が良い。また、歴史的建造物（忍城址、足袋蔵など）が点在している。
- ・忍城址周辺は、より歴史を感じられるまちにしていきたい。

#### ●問題もの（悪いところ、改善したいところ）

- ・市全体の河川が汚い。通水されていない時期に水質が悪化する。
- ・高齢者や子どもが安心して歩ける歩道が必要。また、歩道や自転車道の連続性がない。高齢者がまちなかに住めるようにしたい。
- ・公共施設へのアクセスや南北方向の交通網が十分でない。
- ・商店街の空き店舗が多く、活性化が必要。
- ・市内で働ける場所が少ないため、雇用の創出が必要。
- ・観光資源のネットワーク化や案内の充実が必要。また、来訪者向けの休憩施設や飲食店等が少ない。
- ・市中心部だけでなく、郊外の住環境の満足度を高める必要がある。

#### 中心部地域の課題

- ◆市全体の活性化につながる中心部（商店街）の再生・活性化と観光資源を活かしたまちづくりの推進が求められている。
- ◆中心部における歩いて暮らせるまちづくりの実現と交通ネットワークの強化等による郊外の住環境の向上が求められている。

### 南東部地域のまとめ

#### ●宝もの（良いところ、残したいところ）

- ・古代蓮の里、さきたま古墳公園やさきたま緑道などの資源がある。
- ・豊かな自然環境を保全していきたい。
- ・ものづくり大学等と地域との連携を強化していきたい。

#### ●問題もの（悪いところ、改善したいところ）

- ・長野落悪水路の増水により冠水する地域がある。
- ・幹線道路から生活道路への通り抜け車両が多い。また、生活道路の幅員が狭く、行き止まりが多い。
- ・地域間を結ぶ道路網が不足している。
- ・下水道が整備されていない。
- ・JR行田駅・JR吹上駅・JR北鴻巣駅への公共交通手段やJR行田駅周辺の駐車場が不十分。

#### 南東部地域の課題

- ◆水害対策や道路整備の推進による安心・安全で利便性の高いまちづくりが求められている。
- ◆身近な自然や歴史的資源の保全・活用が求められている。



## 5. こども会議の結果概要

### 実施概要

次代を担う中学生を対象に、行田市の20年後の未来を夢描いてもらうとともに、本計画における基本理念、将来像等の検討材料となるキーワードを得るために開催し、55名の参加をいただきました。

#### 【実施状況】

日時	場所	参加者数
12/10 (日) 10時～12時	中央公民館2階 第1学習室	55名

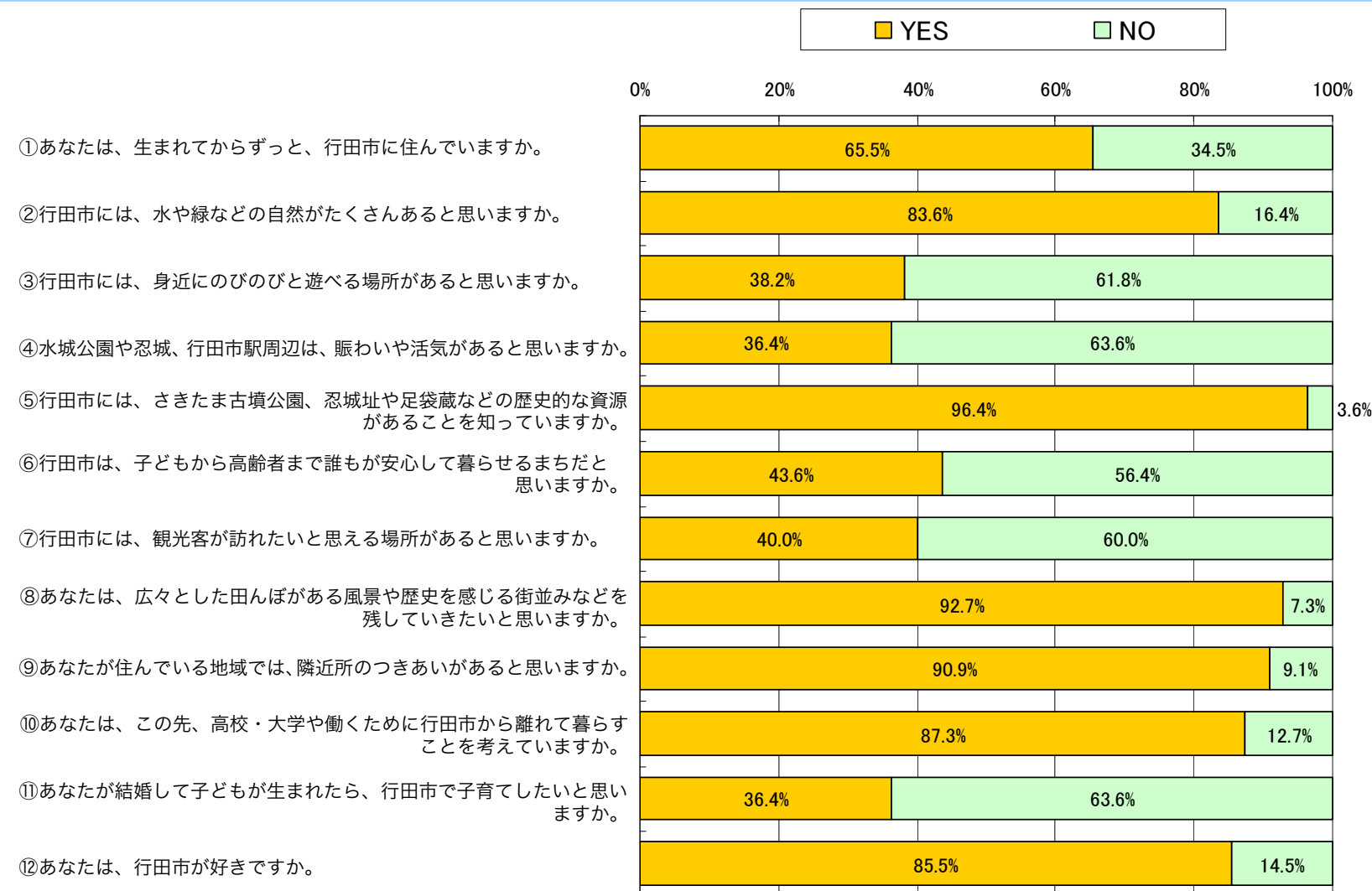
#### 【プログラム】

- ・都市計画マスタープランについての説明
- ・Yes・No アンケート（都市計画マスタープランに関するアンケート）
- ・グループワーク「20年後の行田市を思い描いてみよう」
- ・キャッチフレーズの発表

### キャッチフレーズのキーワード別整理

キーワード	人数	キャッチフレーズ（抜粋）
楽しい、明るい	5	明るく希望あふれる行田／いろんな世代がたのしく暮らす行田
希望、夢	3	明るく希望あふれる行田
笑顔、元気	8	元気と笑顔であふれる行田！！／歴史あふれる 魅力あふれる 笑顔あふれる 行田／笑顔と緑のあふれるまち 行田
美しい	1	美しいまち 行田
住みやすい	6	自然が生きる 住み良いまち 行田／「人々が住みやすい輝くまち」行田 ～観光客が増えるように～
助け合い	1	観光場所や施設が増え、安心して暮らすことができ、人々が助け合う「行田市！」
安全、安心	6	安心・安全・笑顔のまち行田／活気あふれる安心安全のまち 行田
活気	4	活気と緑のあふれる行田！！
自然・緑	11	豊かな自然と歴史あふれるまちなみ in 行田／行きたくなるまち のどかな田んぼ 築こう行田！！／緑の多いまち 行田！
歴史・文化	8	城おし！蓮おし！忍のまち 行田！！／歴史都市 行田！！／城だ 古墳だ やっぱ行田
観光	5	観光宣言都市 行田！！／夢いっぱい 元気いっぱい 世界の人々が集う観光都市 ～行田は元気におもてなし！～
市民がつくる	2	みんなでつくった素晴らしいまち 行田／市民でつくるモデル都市 行田
その他	13	住もうよ 行こうよ 生きようよ 行田市で／忍び強く 行田！

### Yes・No アンケート結果



### グループワークの結果概要（20年後の行田市の姿）

5つのグループに分かれて、子どもや若者、子育て中の人、働き盛りの人、元気な高齢者、手助けが必要な人、観光客といった様々な年代や立場の人々が20年後の行田市でどんな暮らしが来ていると良いか、について意見交換を行いました。ここでは、いただいた意見の中から主なものを紹介します。

- 安全・安心**
  - 防犯、防災
  - 地域とのつながり
  - 子育てしている人への理解があるまち。
  - 手助けが必要な人たちが、住民と関わる機会があるまち。
  - 地域住民の交流があり、あいさつしたら返してくれるまち。
  - 見守りボランティアなど、地域での見守りが行われているまち。
  - 子ども、高齢者、体が不自由な人も安心して暮らせるまち。
- 便利さ**
  - 道路、電車・バス
  - 買い物
  - 買い物できる場所（大きな複合施設）が身近にあるまち。
  - 高齢者でも買い物がしやすいまち。
  - 市内の交通がもっと便利なまち。
  - 秩父鉄道が利用しやすいまち。
  - 観光客のための交通手段が充実しているまち。
- 豊かさ**
  - 自然環境（水と緑）
  - 公園、歴史・文化
  - 自然豊かで緑が多いまち。
  - 川がきれいなまち。
  - 環境に配慮しているまち。（自然エネルギーによる発電、自転車利用の推進）
  - 市全体でリサイクルがシステム化されているまち。
  - 小さい子どもが安全にのびのびと遊べる公園や広場があるまち。
  - 歴史を感じられるまち。
- 活気とにぎわい**
  - 働く場所、観光
  - まちなみ
  - 商店街が活性化しているまち。
  - 行田市内に働く場所がたくさんあるまち。
  - 祭りやイベントが盛んで、行田限定のグッズやゆるキャラも全国的に有名なまち。
- その他**
  - 住民が誇りを持てるようなまち。
  - マイホーム的な雰囲気が行田市全体にあるまち。
  - オンリーワンのまち。

## 6. 市民まちづくり会議の概要

### 実施概要

「全体構想」に係る部分について、テーマ（分野）ごとの現況と課題、まちづくりの方向性や実現に向けた取り組みアイデアについて、計4回の市民まちづくり会議を開催しました。

会議では、「住まいと暮らし」「暮らしを支える」「魅力をもつ」「賑わいをつくる」の4つのグループに分かれて検討を進め、市民提案書をまとめました。

#### 【実施状況】

回	日時	内容	参加者数
第1回	11/27(日) 10時~12時25分	まちづくりの現状と課題を整理しよう	26名
第2回	12/18(日) 9時~12時	まちづくりの方向性を考えよう	23名
第3回	1/29(日) 13時半~16時45分	まちづくり方策を考えよう	25名
第4回	2/26(日) 13時半~16時55分	テーマ別まちづくりの市民案をまとめよう	26名



### 現状と課題の整理

各グループで出された主な意見を紹介します。なお、詳細は市民提案書をご覧ください。  
(◎：宝もの、△：問題もの)

#### 住まいと暮らし 住環境、防災・防犯、コミュニティ

- ◎自然災害が少ない。
- ◎市民による防犯パトロールが行われている。
- △河川や水路が多く、水害の危険性がある。
- △市有地や緑道等の維持管理が十分にされていない。
- △住宅地の生活道路への通過交通が多いところがある。
- △建て替えに伴い、宅地の細分化が進んでいる。

#### 魅力をもつ 自然環境（水と緑）、景観、歴史・文化、レクリエーション

- ◎田園や水辺などの自然風景に恵まれている。
- ◎さきたま古墳群や忍城址、足袋蔵など歴史的な資源が多い。
- ◎古民家や屋敷林が残されている。
- ◎武蔵水路沿いの緑道など水辺を楽しめる環境がある。
- ◎市内各所にレンタサイクルがある。
- ◎周辺にサイクリングロードが多数ある。（平坦な地形をいかしている。）
- △忍川など、川や水路の水質が良くない。
- △地域資源をつなぐ、安心して歩ける道や公共交通手段が十分でない。
- △公園内や市内に休憩できる場所（トイレ、ベンチ）が少ない。
- △観光地を示す案内板や地図がわかりにくい。

#### 暮らしを支える 道路、公共交通、上・下水道

- △主要道路で歩道が整備されていない箇所がある。
- △歩行者と自転車が安心して利用できない。
- △市内循環バスの利用率が低い。
- △JR行田駅よりもJR吹上駅の方が、市民によく利用されている。
- △忍川や酒巻導水路に生活排水が流入している。

#### 賑わいをつくる 中心市街地と駅周辺のまちづくり、産業振興（農・工・商）、観光

- ◎観光資源がたくさんある。
- △市街地の商店街の活気がない。シャッター通りになっている。
- △商店街の衰退により、雇用の減少や経済不振などの影響が出ている。
- △JR行田駅の計画が見えない。また、開発が進まず、商業施設などの集積がない。
- △JR行田駅へのアクセスが悪く、利用しにくい。
- △農業の特産物が少ない。PR不足。
- △行田のブランドがない。
- △飲食店・物産店や宿泊施設等が少ない。
- △観光に関する情報がわかりにくい。（案内所、看板）
- △観光に対する市民の関心が低い。
- △大学や諸団体との協力体制が出来ていない。

### まちづくりの方向性取り組みアイデア

各グループで検討されたまちづくりの方向性と取り組みアイデアの一部を紹介します。なお、詳細は市民提案書をご覧ください。

#### 住まいと暮らし 住環境、防災・防犯、コミュニティ

##### ■まちづくりの方向性

- ・水害対策を充実させる。
- ・防災体制の見直しや震災時などの体制を強化する。
- ・良好な住環境を保全・維持するためのルールをつくる。
- ・屋敷林などのまとまった緑を保全・活用する。
- ・公園や街路樹の維持管理のあり方を見直す。
- ・地域で気軽に集まれる場所の整備・充実

##### ■取り組みアイデア

- ・水害に備えるための河川改修
- ・水害のハザードマップの定期的な見直し
- ・地震・水害・火災別の防災訓練の実施
- ・建築協定や地区計画の整備推進
- ・公園や街路樹のオーナー制の導入
- ・コミュニティ施設の整備や小・中学校の有効活用
- ・既存施設の再編成

#### 暮らしを支える 道路、公共交通、上・下水道

##### ■まちづくりの方向性

- ・歩いて暮らせるまちづくりを推進する。
- ・歩きたくなる、人に優しいみちづくりを推進する。
- ・市民と一体になった「みちを守る」ための仕組みをつくる。
- ・地域住民の利便性を高めるバス路線ルートに見直す。
- ・公共交通利用者のための駐車場を整備する。
- ・河川環境を保全する。

##### ■取り組みアイデア

- ・歩行者空間の確保（グリーン舗装、一方通行化等）
- ・自転車専用道路（レーン）の整備
- ・JR行田駅へのバス運行の強化
- ・循環バスルートの見直し
- ・デマンドバス等の実施
- ・鉄道事業者と市・市民との意見交換の実施
- ・湧水期通水による河川の浄化

#### 魅力をもつ 自然環境（水と緑）、景観、歴史・文化、レクリエーション

##### ■まちづくりの方向性

- ・地域資源の保全手法を検討する。
- ・地域資源の維持管理にボランティアを活用する。
- ・地域資源をつなぐルートを設定する。
- ・市民が身近でスポーツに親しめる環境を整える。
- ・市民や観光客がホッとできる場を整備する。
- ・情報発信の体制づくりや、既存の情報発信手法を見直し改善する。
- ・市民一人ひとりが、行田市の宣伝をできるようにする。

##### ■取り組みアイデア

- ・買い上げを含めた保全・活用方法の検討
- ・ボランティアによる地域資源の維持管理の仕組みづくり
- ・主要な拠点を結ぶ緑道の整備
- ・身近なスポーツ施設の充実
- ・観光情報の一元化とホームページのわかりやすさと利便性の向上、他団体へのリンクの充実
- ・市民がまちについて学ぶ機会の充実

#### 賑わいをつくる 中心市街地を駅周辺、産業振興、観光

##### ■まちづくりの方向性

- ・高齢者にやさしい商店街など、商店街の差別化による活性化を図る。
- ・商店街の再編・集約を図る。
- ・人が集まる場所を創出する。
- ・個別計画に基づき、戦略的に開発を推進する。（JR行田駅）
- ・人口流出に歯止めをかけるための施策を充実する。
- ・行田ブランドを創出する。
- ・観光客が訪れたい施設・環境を整備する。
- ・観光客に分かりやすい案内やガイドを充実させる。
- ・観光に関するPRを強化する。

##### ■取り組みアイデア

- ・商店街における高齢者向けサービスの充実
- ・空き店舗の再編による専門店ゾーンの形成
- ・経営意欲のある店舗の集約化・テナント誘致
- ・商店街特区をつくる（税の減免措置等）
- ・JR行田駅周辺における計画的・戦略的・具体的な開発の推進
- ・規制緩和によるマンション開発や誘導等
- ・新たな行田ブランドの創出と観光物産館の整備
- ・地産地消による飲食店の展開
- ・ガイドボランティア（説明ボランティア）の結成
- ・ホームページやパンフレットの見直しと充実
- ・様々な媒体を活用した情報発信の強化
- ・「行田市」を「忍城市」に改名する